

TOTO

施工説明書

自動消毒手洗器

単水栓 TEL150型
サーモスタット混合栓 TEL151型





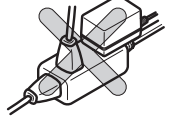

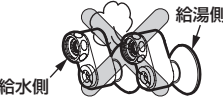
商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1-1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください。)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

 警告	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。	  は、してはいけない「禁止」内容です。左図は、「分解禁止」を示します。
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、傷害または物的損害が発生する可能性があることを示しています。	  は、必ず実行していただく「強制」内容です。左図は、「必ず実行」を示します。




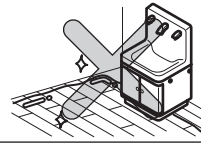

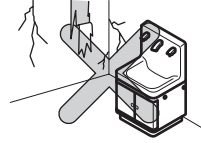
警告	
 禁止	<p>ガタついているコンセントは使わない 火災や感電の原因になります。</p> 
	<p>電源プラグや機能部に水をかけない 火災や感電の原因になります。</p> 
	<p>直流電流や異電圧の電源での使用は避ける 火災や感電の原因になります。</p>  <p>必ず200Vはダメ!</p>
	<p>コンセントや配線器具の定格を超える使いかたをしない たこ足配線などで定格を超えると、発熱による火災の原因になります。</p> 
	<p>電源コード・電源プラグが破損するようなことをしない 傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重いものを載せたり、挟み込んだり、加熱したりしない 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。</p> 
	<p>電源コードの加工（切断・継ぎ足し）を行わない 火災や感電の原因になります。</p>
	<p>湯水を逆に配管しない 水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。</p>  <p>給湯側 給水側</p>

1-2

警告	
 禁止	<p>給湯温度は85℃より高温で使用しない 85℃より高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、水漏れのため家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。</p>  <p>85℃以下</p>
	<p>屋内で直射日光の当たる場所には設置しない 火災または故障・誤動作の原因になります。</p> 
	<p>高温（40℃以上）になる場所には設置しない 火災または故障・誤動作の原因になります。</p> 
 接触禁止	<p>換気が十分に行えない密封された場所には設置しない 消毒液が充満して、事故や体調不良のおそれがあります。</p> 
	<p>ぬれた手で、電源プラグを抜き差ししない 感電の原因になります。</p> 
 接触禁止	<p>雷が発生しているときは、電源プラグに触れない 感電の原因になります。</p> 
	<p>浴室など湿気の多い場所には設置しない 火災・感電の原因になります。</p> 
 水場使用禁止	<p>この説明書に記載された項目以外は分解・改造しない 故障・感電の原因になります。</p> 
 分解禁止	<p>エタノール使用につき、火気・熱気のある所へは設置しない 火災の原因になります。</p> 
 火気厳禁	<p>電源プラグを抜くときは、必ずプラグ本体を持って引き抜く コードを引っ張るとプラグやコードが傷んで、火災や感電の原因になります。</p> 
 必ず実行	<p>電源プラグをコンセントに差し込むときは、根元まで十分差し込む 火災の原因になります。</p>  <p>根元までしっかりと!</p>
	<p>フィルターの掃除をする際は、いきなりふたをゆるめず、止水栓を閉めてから行う また、給湯側のフィルター付き止水栓が熱くないことを確認する 高温の湯が出てやけどをしたり、水漏れにより家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。</p> 

1-3

⚠ 注意

 禁止	強い力や衝撃を与えない 破損して、水漏れにより家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	
	タンク内の水石けんや消毒液、または屋外や凍結が予想される場所には設置しない 部品が破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。凍結のおそれがある場合は、手洗器の周辺の温度が氷点下にならないようにしてください。凍結による破損は、保証期間内でも有料修理となります。	
	ワックスや塗装を施している床・壁およびカーペット類が設置されている場所には取り付けない 消毒液により、変質や変色のおそれがあります。	
 必ず実行	十分に強度がある壁面に取り付ける 強度不足の壁面に取り付けると、落下してけがをしたり、破損の原因になります。	

2-1

仕様

品番	TEL150型	TEL151型
タイプ	単水栓	サーモスタット混合栓
外寸	幅500mm × 奥行400mm × 高さ773mm	
主要部品材料	手洗器：アクリル系人工大理石 機能部(カバー、タンク他)：ポリプロピレン	
質量	乾燥時 16kg / 満タン時 20kg	乾燥時 17kg / 満タン時 21kg
電源電圧	AC100V 50/60Hz	
消費電力	待機時	2W
	動作時	6W
給水・給湯圧力	最低必要水圧	0.05MPa(流動時)
	最高水圧	0.75MPa(静止時)
給湯温度	— / 60~85℃	
使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水	
使用環境温度	1~40℃ (凍結が予想される地域ではご使用になれません。)	
水(湯)	吐水形態	泡まつ
	吐水流量	4L/分(定流量弁付き)
水石けん	吐出形態	液状
	吐出流量	約3ml/回

2-2

品番	TEL150型	TEL151型
タイプ	単水栓	サーモスタット混合栓
消毒液	吐出形態	噴射状
	吐出流量	約3ml/回
タンク容量	水石けん	約2L(使用可能容量)
	消毒液	約2L(使用可能容量)
給水(給湯)接続	壁給水 R 1/2	壁給水 PJ 1/2
排水接続	壁排水 φ32黄銅管	
用途	手洗い用	

※水石けんは、TOTO石けん液(推奨希釈倍率：原液~3倍)、消毒液は消毒用エタノール(市販品)を使用してください。

3

取り付け前に

1. 給水・給湯圧力の確認

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で0.2~0.3MPa程度に減圧してください。快適に水栓をお使いいただくためには、0.2~0.3MPa程度の水圧をおすすめします。
- 給水圧力は給湯圧力より必ず高くするか、同圧になるようにしてください。**(サーモスタット混合栓の場合)** また、湯側を加圧する場合でも、必ず湯側圧力を水側より低くしてください。
- 給水・給湯圧力範囲は、0.05~0.75MPaです。この圧力範囲内でご使用ください。

2. 給湯温度の確認(サーモスタット混合栓の場合)

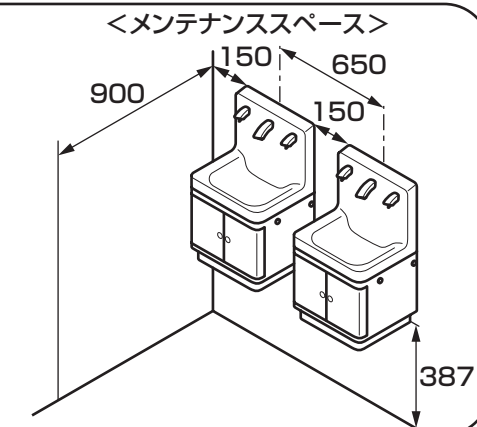
- 誤作動などによるやけど防止のため、**60℃給湯**をおすすめします。ただし、約50℃以上の湯は出さないようにしています。

3. 配管・配線について

- 給湯機からの給湯管は抵抗を少なくするために最短距離で配管し、配管には必ず保温材を巻いてください。(サーモスタット混合栓の場合)
- 電源は**AC100V(50/60Hz)**、最高消費電力は**6W**です。必ずこれに適した配線をしてください。

4. その他

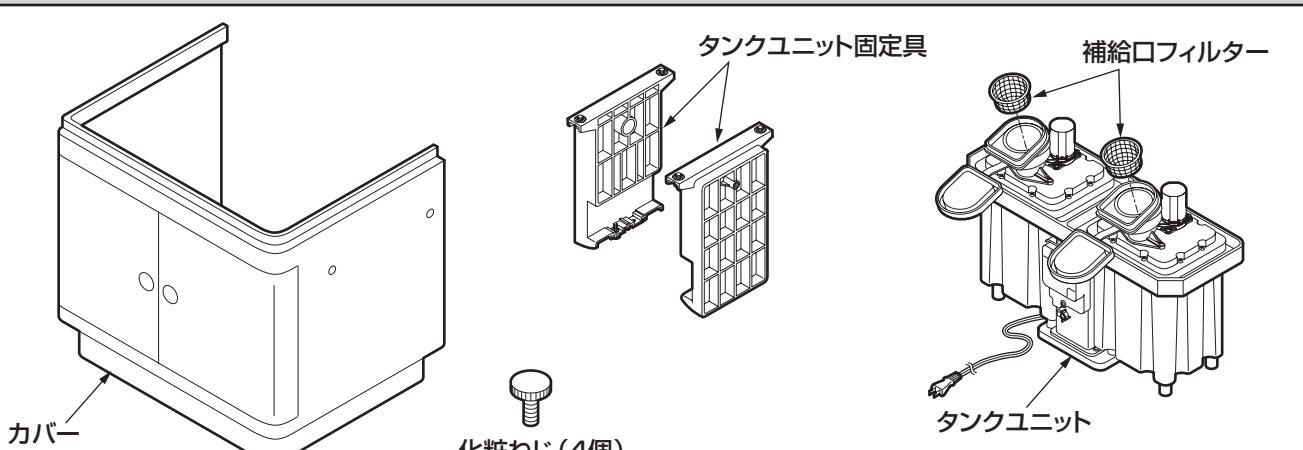
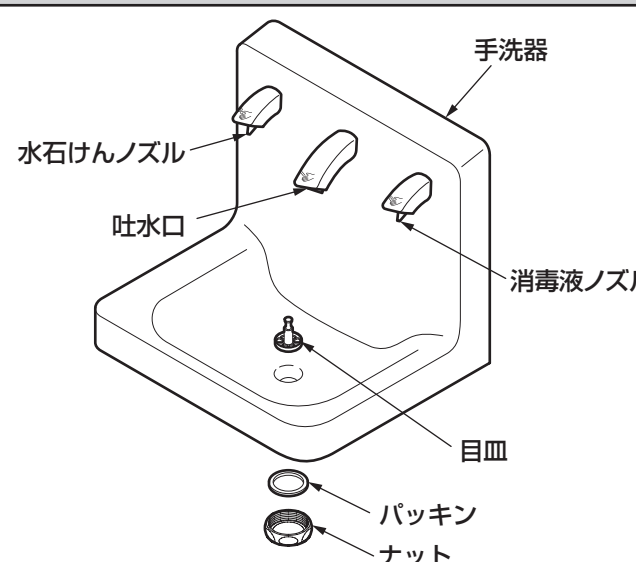
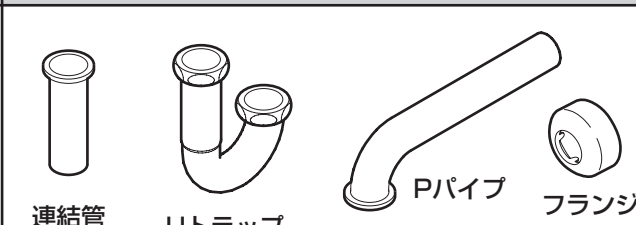
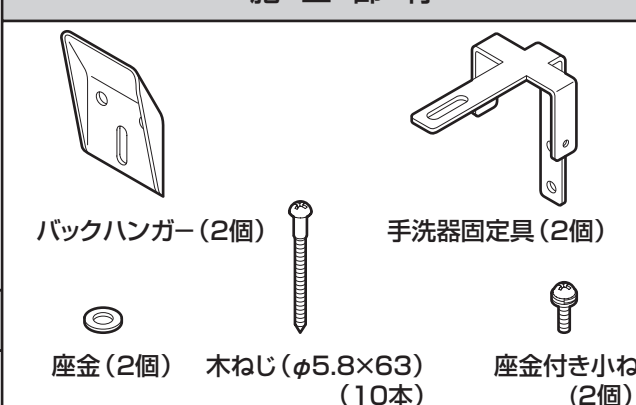

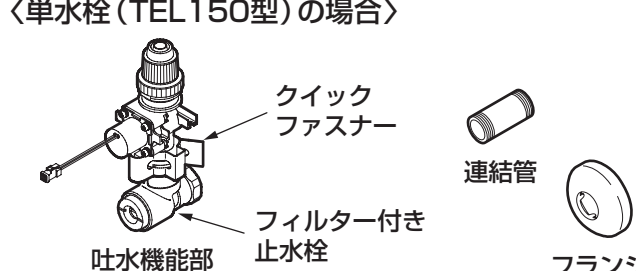
- 必ずメンテナンススペースを確保してください。
- 手洗器の壁固定部分が弱い壁面の場合は、補強材などで補強してから固定してください。
※タイル・コンクリート壁の場合は、現物に合わせて木ねじ位置に下穴を開け、木ねじ用プラグを打ち込んでおいてください。プラグ用の下穴は必ずご使用のプラグ指定のドリル径で開けてください。
- インバーターや赤外線を用いた他の機器により誤作動することがあります。
- 自動消毒手洗器は屋内用です。屋外では使用しないでください。
- 梱包前に通水検査をしていますので、商品内に水が残っている可能性があります。商品には問題ありません。



4

部品の確認

次の部品があることを確認してください。

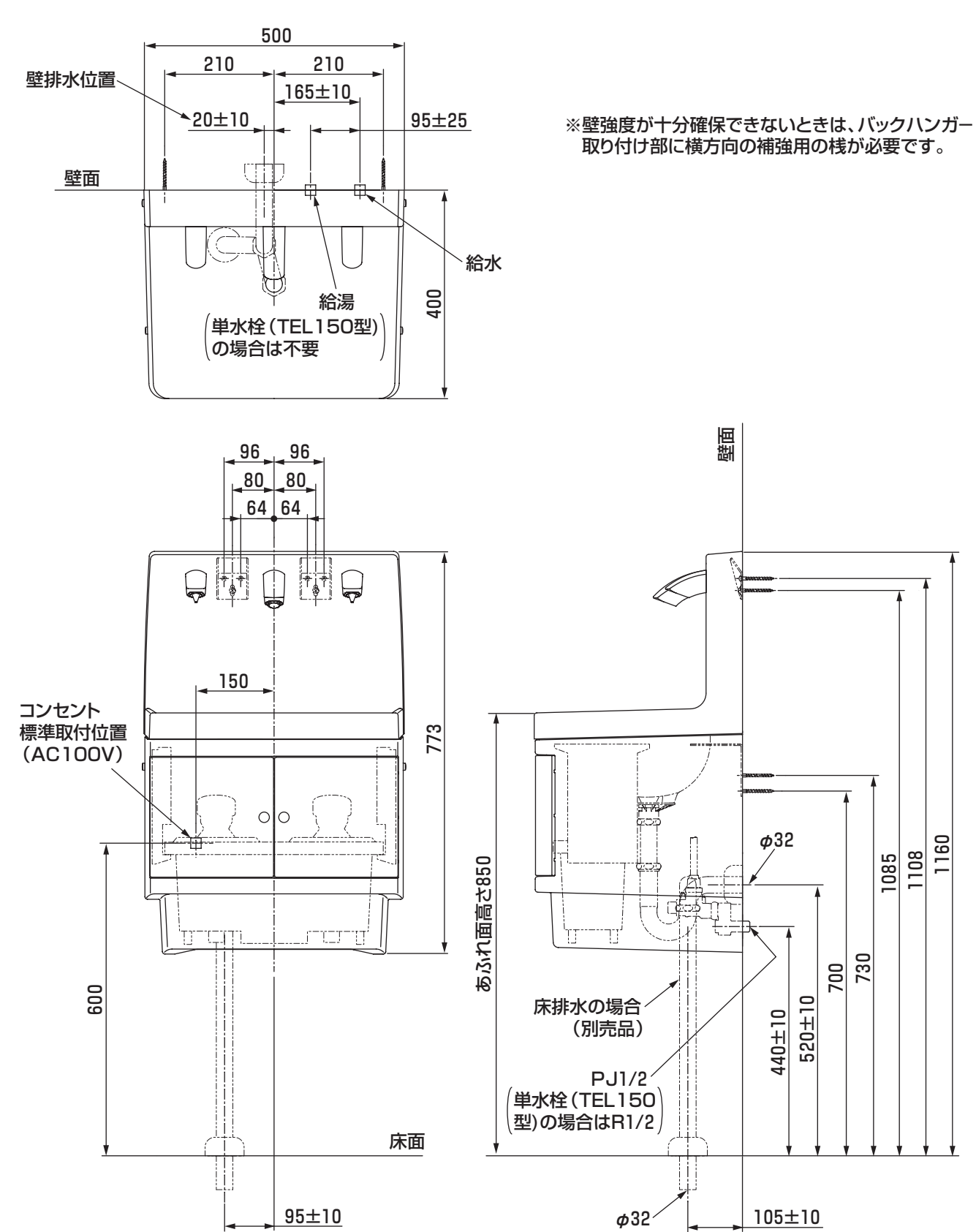
<p>タンクユニット部</p> 	
<p>手洗器ユニット</p> 	<p>排水配管</p> 
<p>施工部材</p> 	
<p>吐水機能部</p> <p>〈サーモスタット混合栓 (TEL151型) の場合〉</p>  <p>〈単水栓 (TEL150型) の場合〉</p> 	
<p>その他</p> <p>ラベル</p> <p>水石けん 水(湯) 消毒液</p> <p>手洗い方法ラベル</p> <p>施工説明書</p> <p>必ずお客様にお渡しください</p> <p>開閉工具 取扱説明書</p>	

5

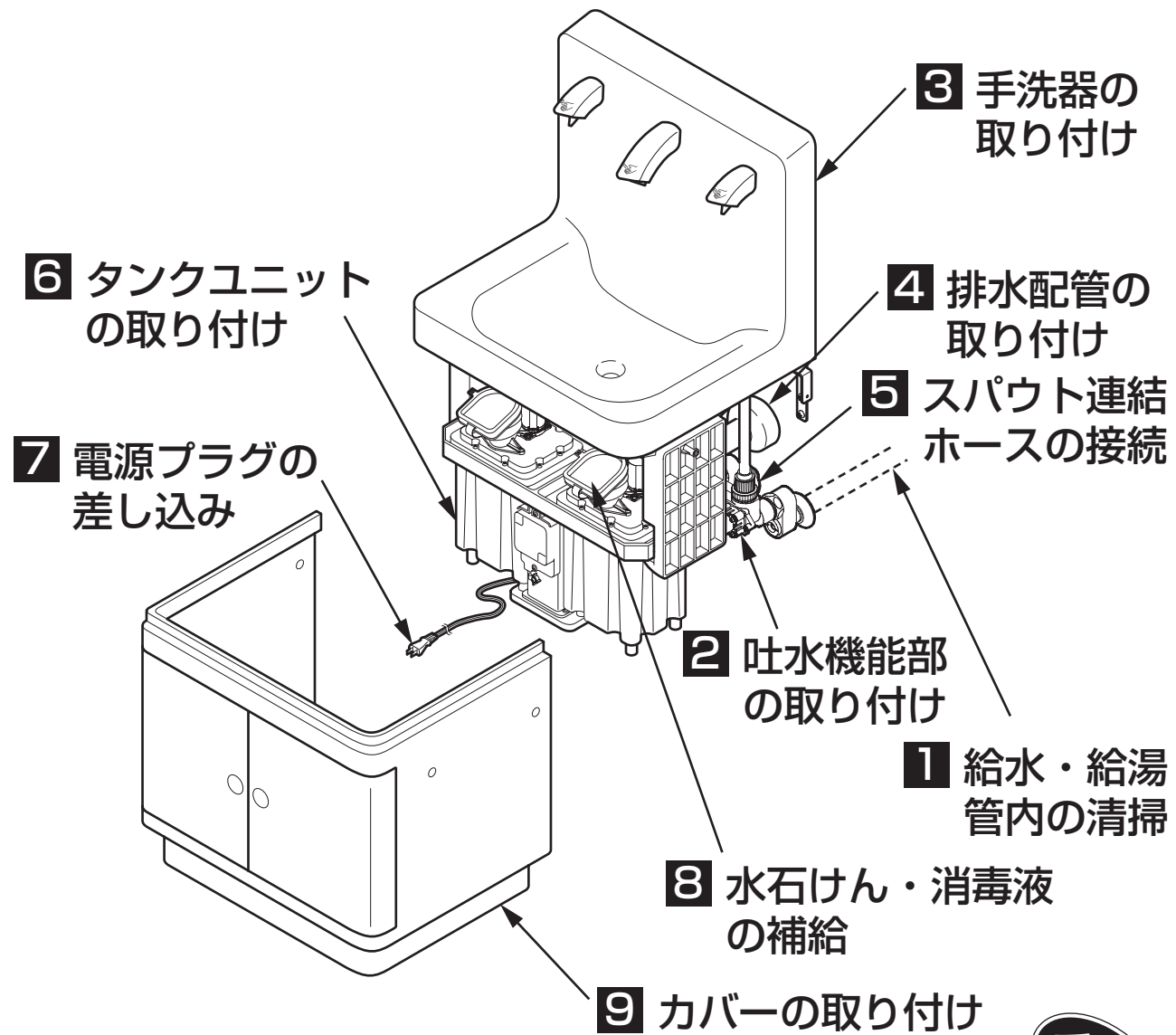
完成図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

サーモスタット混合栓 (TEL151型) の場合 (単位:mm)



※壁強度が十分確保できないときは、バックハンガー取り付け部に横方向の補強用の棧が必要です。



1 給水・給湯管内の清掃

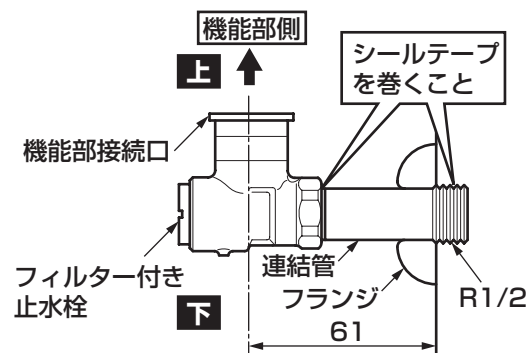
取り付ける前に **必ず給水・給湯管内のごみ、砂などを完全に洗い流す。**

重要

2 吐水機能部の取り付け

〈単水栓の場合〉

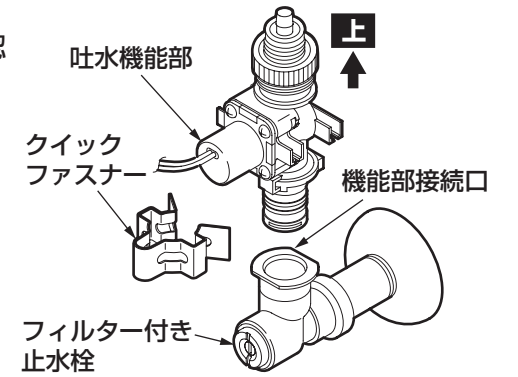
①フランジ、連結管、フィルター付き止水栓を取り付ける。



※陶器と機能部が干渉する場合、取付脚(別売:TN74-2X)をご利用ください。

②フィルター付き止水栓の機能部接続口が上になっていることを確認し、吐水機能部をフィルター付き止水栓に取り付ける。

③クイックファスナーで固定する。



注意



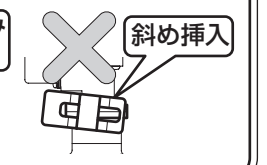
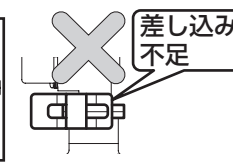
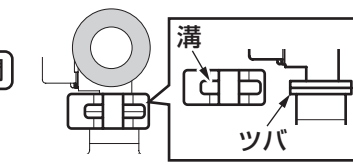
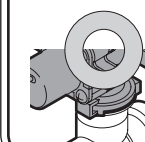
必ず実行

クイックファスナーの取り付けは、確実に行う
不完全な場合、外れて水漏れの原因になります。

●すき間がないよう、確実に押し込む。

●クイックファスナーの溝にツバが全周にかかっていること。

●クイックファスナー取り付け後は、正しく取り付いていることを目視や鏡で確認する。



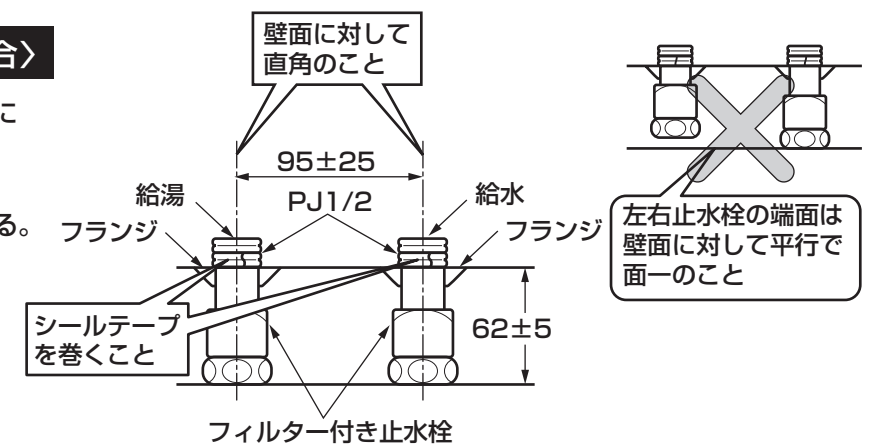
〈サーモスタット混合栓の場合〉

①フランジをフィルター付き止水栓に取り付ける。

②フィルター付き止水栓を取り付ける。(給水・給湯側)

③フィルター付き止水栓の袋ナットにパッキンを取り付ける。

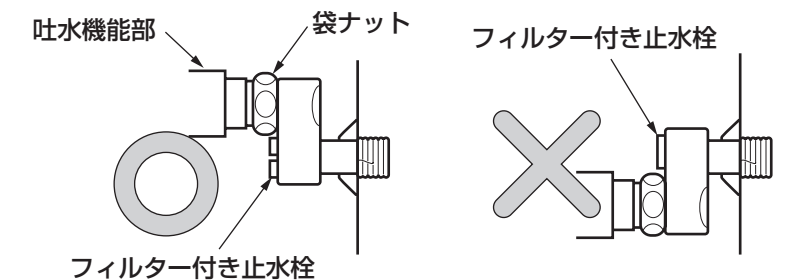
④吐水機能部を取り付ける。



注意

●パッキンを必ず取り付けてください。

●フィルター付き止水栓は吐水機能部の接続部が上になるように取り付けてください。下になるとフィルターの掃除、および止水栓の調節ができません。

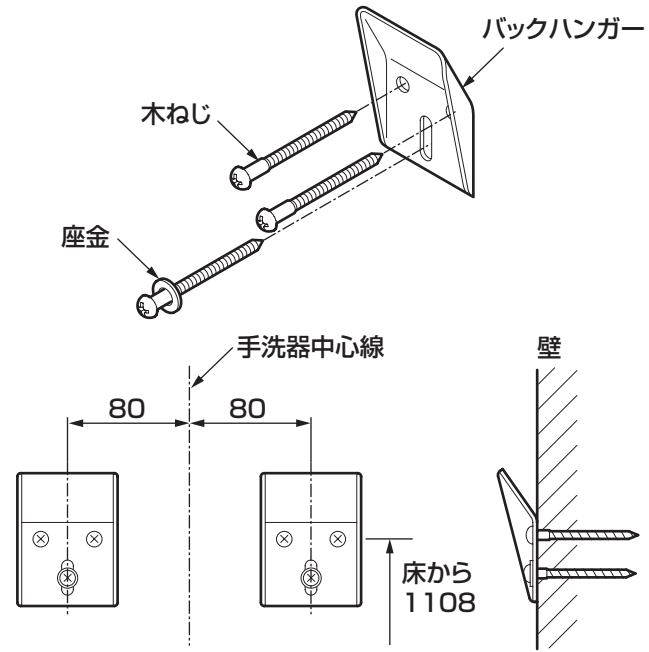


※陶器と機能部が干渉する場合、取付脚(別売:TN75-1X)をご利用ください。

裏面へつづく

3 手洗器の取り付け

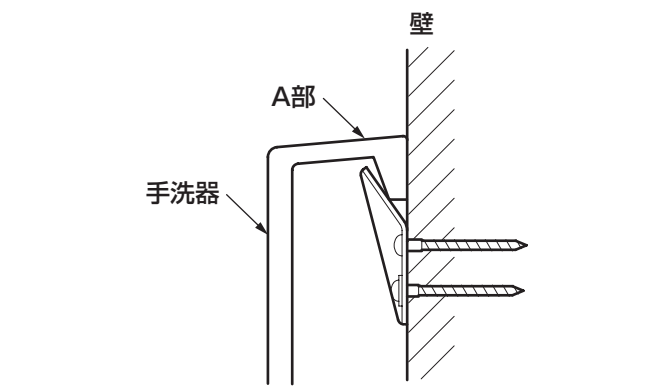
- ①「5 完成図」を参考に、バックハンガーを所定の位置に木ねじで固定する。
 ※下の長穴にはバックハンガーと木ねじの間に座金を入れること。



注意

- 壁面への穴あけ時は、他の配管・配線が通っていないことを確認してください。
- 左右のバックハンガーの高さが均等になるように固定してください。

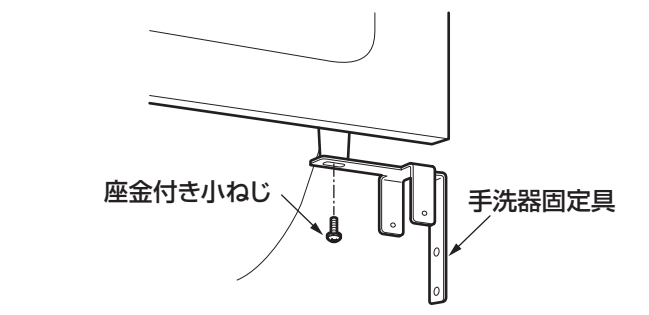
- ②バックハンガーの上方から手洗器を掛ける。
 ③手洗器A部を上からよく押さえて水平になるように調節する。



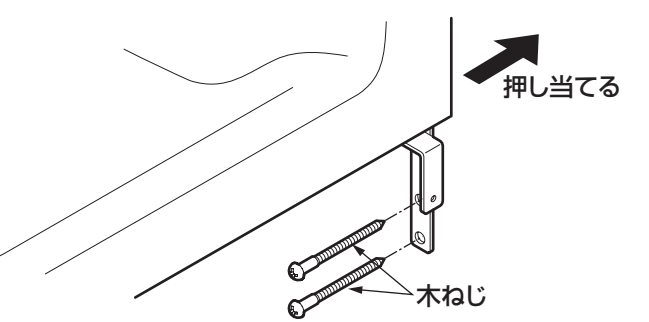
注意

- 手洗器の取り扱い時は、スパウトや排水部をつかまさないでください。
- 手洗器をバックハンガーへ掛ける時は、スパウト連結ホースとコード類を挟み込まないように注意してください。

- ④座金付き小ねじで手洗器固定具の長穴と手洗器を仮締めする。
 ※手洗器固定具は左右兼用です。



- ⑤手洗器固定具を壁へ押し当て、木ねじで壁と固定する。
 ⑥長穴の座金付き小ねじを本固定する。



4 排水配管の取り付け

注意

●排水管と別売りのアダプター（下表）を使用して確実に接合してください。

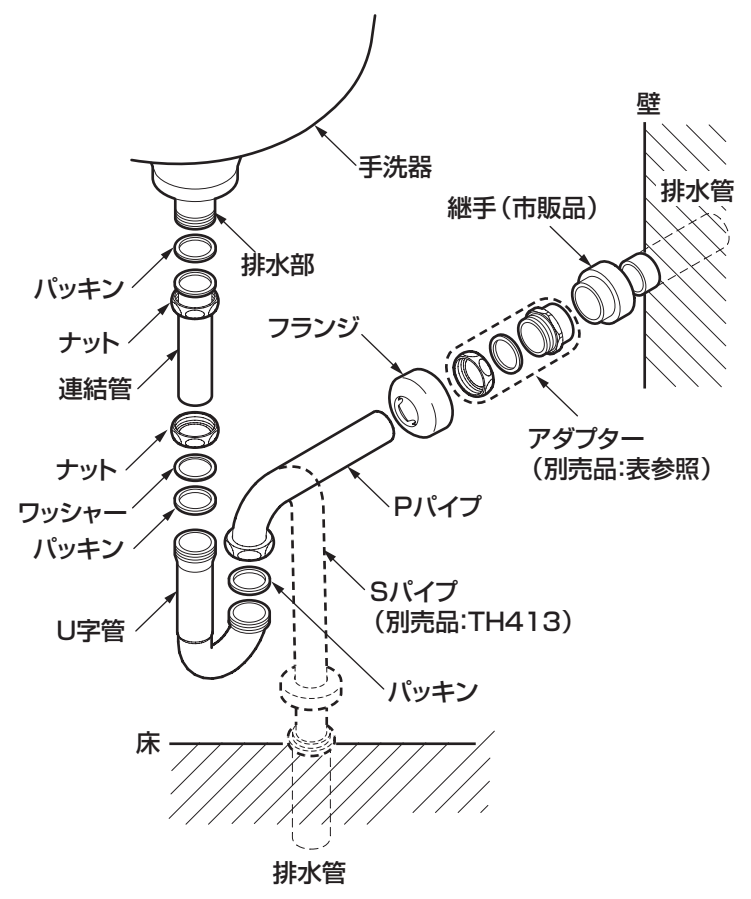
アダプターの種類	サイズ
T1122（鋼管用）	R 1 1/4
T1122J（塩ビ管用）	30用
T1122T（塩ビ管用）	40用
TH500E32（鉛管用）	30用

●床排水の場合は、別売品のSパイプ（TH413）を使用してください。

- ①排水部にパッキンを取り付け、連結管を取り付ける。
 ②排水管にPパイプを取り付ける。
 ③連結管とPパイプにU字管を取り付ける。

注意

- 壁と排水管のすき間は、害虫などの侵入防止のため、コーキングなどでシールしてください。
- 工具で確実にナットを締め付けてください。
- 排水部品のエッジ部やねじ部だけがをしないように取り扱いに注意してください。
- パッキンを忘れないように必ず取り付けてください。



5 スパウト連結ホースの接続

- ①スパウト連結ホースを吐水機能部のホース継手に合うように適切な長さに切断する。

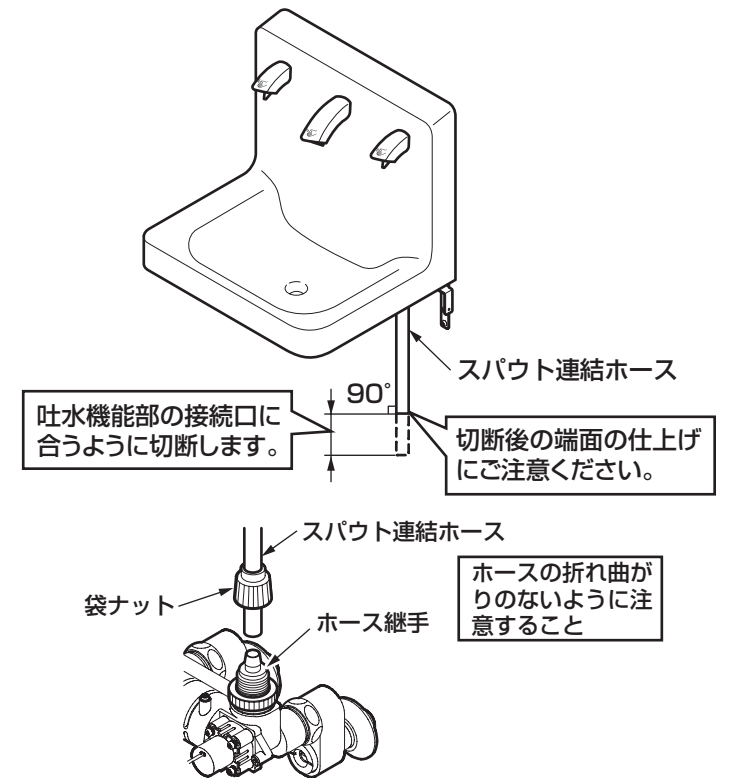
注意

- カッターなどを用い、切断面が垂直になるよう行ってください。
- スパウト連結ホースが長すぎると、折れ曲がりによる吐水不良のおそれがあります。

- ②スパウト連結ホースに袋ナットを通す。
 ③スパウト連結ホースをホース継手に差し込む。

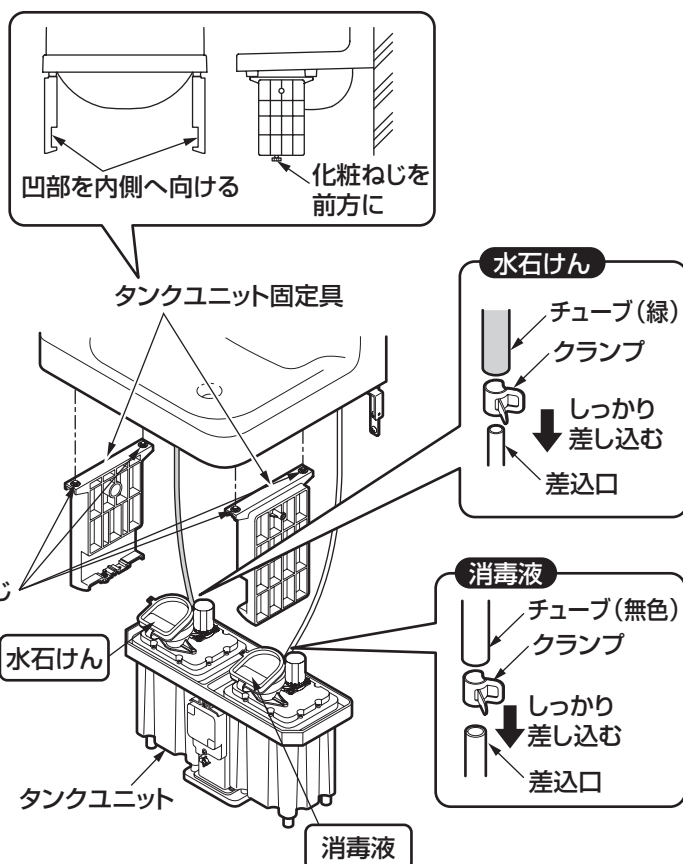
④袋ナットを手で締め付ける。
注意

- スパウト連結ホースが確実に差し込まれているか確認してください。
- スパウト連結ホースが折れ曲がることのないように注意してください。



6 タンクユニットの取り付け

- ①タンクユニット固定具をねじで手洗器下部に取り付ける。(左右2カ所ずつ)
- ②水石けんチューブ(緑)をタンクユニット左側の差込口にしっかり差し込み、クランプを取り付ける。
- ③消毒液チューブ(無色)をタンクユニット右側の差込口にしっかり差し込み、クランプを取り付ける。



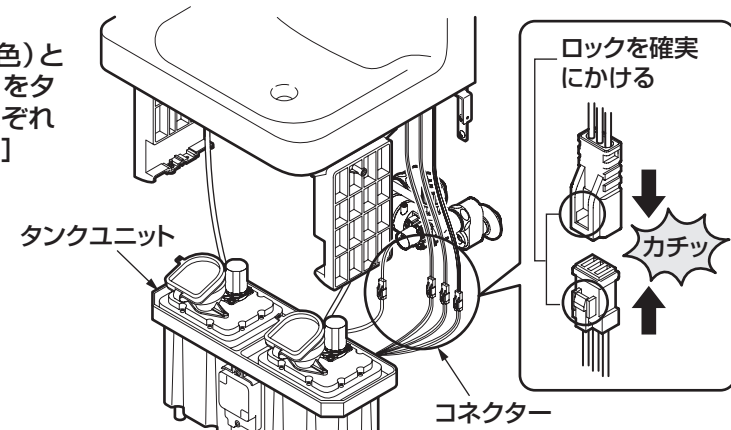
注意

- タンクユニット固定具はねじで確実に締めてください。
- チューブは切断しないでください。(メンテナンス作業時に余長が必要になります)
- チューブが差し込みにくい場合は、湯で柔らかくして差し込んでください。
- チューブが確実に差し込まれクランプが設置されているか確認してください。
- チューブが折れ曲がることのないように注意してください。

- ④手洗器側のコネクター(3個:黒色・緑色・黄色)と電磁弁から出ているコネクター(1個:青色)をタンクユニットから出ているコネクターにそれぞれ色を合わせて接続する。[接続箇所計4カ所]

注意

- 差し間違えないように注意してください。
- | | | | | |
|--------|------|----|-----|-----|
| | 水石けん | 水 | 消毒液 | 電磁弁 |
| コネクター色 | 黒色 | 緑色 | 黄色 | 青色 |
- カチッと音がするまでしっかりと差し込んでください。

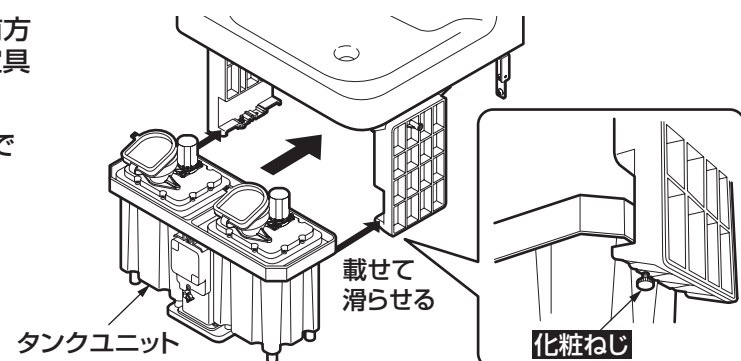


- ⑤タンクユニットをタンクユニット固定具の前方から滑らせるようにしてタンクユニット固定具の下端に載せる。

- ⑥タンクユニット固定具の下端から化粧ねじで固定する。(左右1カ所ずつ)

注意

- ホース、チューブの折れ曲がり、およびコード類の挟み込みに注意してください。
- 化粧ねじは確実に締めてください。

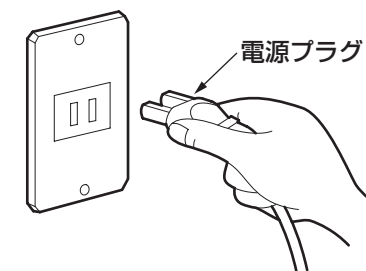


7 電源プラグの差し込み

電源プラグをコンセントに差し込む。

注意

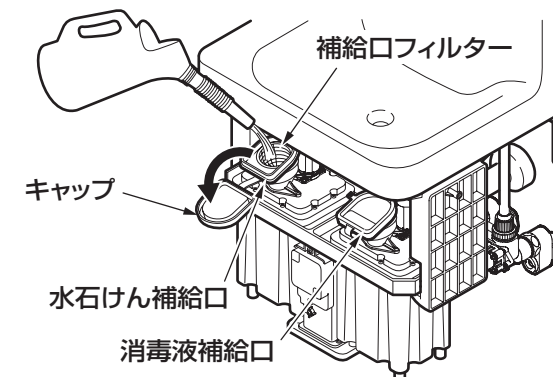
- 手洗器と自動ドアを連動させる場合は、「8 自動ドアと連動させる場合」を行ってから電源プラグを差し込んでください。
- 電源が入ると直ちに感知距離を自動設定しますので、センサーに手をかざしたり、手洗器内に物を置いたりしないでください。(約10秒間でこの動作は完了します。)



8 水石けん・消毒液の補給

- 水石けんと消毒液は付属しておりません。
- 推奨の水石けんおよび消毒液を準備していない場合は、水石けん・消毒液の代わりに「水道水」を補給してください。
- 施工後、長期間使用されない場合は、吐出不良の原因となるため、試運転は「水」で行ってください。また、試運転後はタンク内の水は溜めたままにしておき、使用開始時に水石けん・消毒液と入れ替えてください。

- ①タンクのキャップを開ける。
- ②水石けんと消毒液をそれぞれタンク(水石けんは左側、消毒液は右側)に補給口フィルターを通して、液位を確認しながらゆっくりと注ぐ。
※タンクの容量は約2L(使用可能量)です。
※満水時の液位は、補給口上面または、側面より確認してください。
- ③タンクのキャップを閉め、カバーの扉を閉める。



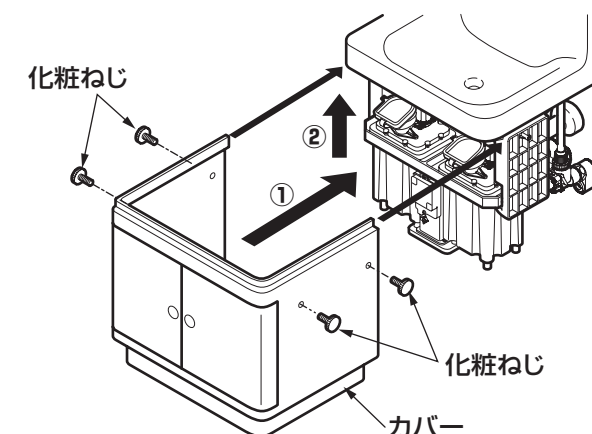
注意

- 左右のタンクに入れ間違わないようにしてください。入れ間違えた場合は、液を排出し、取扱説明書の「定期的な点検と掃除」を参照のうえ、タンク内の掃除をしてください。
- 消毒液の注入時は火気に十分注意してください。
- 水石けんの注入は、出来る限り泡が立たないようにゆっくりと注いでください。
- 注入後、タンクキャップを確実に閉めてください。
- 水石けんはきれいな容器で補給直前に推奨倍率に薄めて補給してください。薄める場合は水道水で行ってください。

9 カバーの取り付け

「7 試運転および調節」を行った後、カバーを取り付けると、施工がスムーズに行えます。

- ①前方からカバーをスライドさせ取り付ける。
- ②上方に持ち上げて、化粧ねじで固定する。(左右2カ所ずつ)



7

試運転および調節

1. 試運転

① 水石けんを出す

- ・水石けんノズル（左）に手を近づけるとセンサーが感知し、約1秒間水石けんが出ます。
- ・手を差し出したままにしておくと、約2秒後に再度水石けんが出ます。（最大3回まで）

② 水（湯）を出す・止める

- ・吐水口（中央）に手を近づけるとセンサーが感知し、水が出ます。
- ・手を離すと水が止まります。
- ・水が出続けると約1分間で自動的に止まります。（再び、水を出したい場合は一度手を吐水口から離してください。）

③ 消毒液を出す

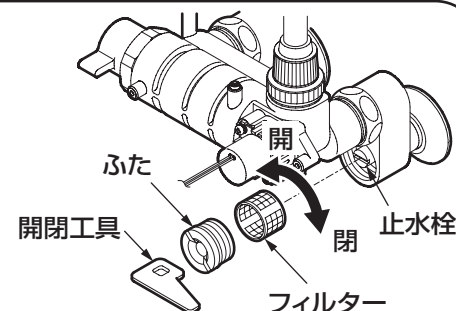
- ・消毒液ノズル（右）に手を近づけるとセンサーが感知し、約1秒間消毒液が出ます。（消毒液は噴射状に出ます。）
- ・手を差し出したままにしておくと、約2秒後に再度消毒液が出ます。（最大3回まで）

※水石けん・水・消毒液を2カ所以上同時に出すことはできません。



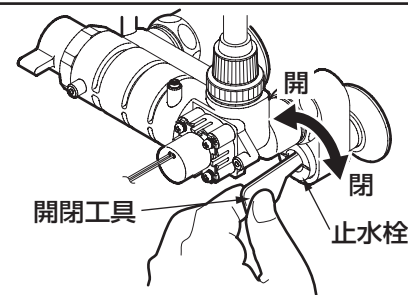
2. フィルターの掃除

取り付け後は必ずフィルターを掃除してください。フィルターが詰まると流量が少なくなったり、十分な機能が発揮されなくなります。また、お客様にも時々掃除していただくようにご説明ください。※フィルターを取り外すときは、付属の開閉工具で止水栓を閉めたあと、ふたを外してください。また、湯側のフィルターが熱くないことを確認してください。



3. 流量調節

機能部内部に、定流量弁（4L/分）を内蔵していますので、流量の調節は不要です。止水栓は全開でご利用ください。また、流量を少なくしたい場合には、付属の開閉工具で止水栓を回して、流量を調節してください。



4. 温度調節（サーモスタット混合栓の場合）

工場で適温（38℃）に温度調節をしています。取付現場の圧力状況などによって、所定の温度にならない場合があります。この場合は、温度調節ハンドルを手で回して温度を調節してください。



8

自動ドアと連動させる場合

※自動ドアと連動させる場合は、別売品の自動ドア連動ボックス（品番:TYC503）を準備してください。手洗い作業の消毒液の噴射と連動して自動ドアが開きます。

1. 自動ドア連動ボックスを取り付ける。

※自動ドア連動ボックス（TYC503）の取り付けに関しては、自動ドア連動ボックスの施工説明書を参照してください。ただし、遅延時間の設定を行うため、ケースカバーの取り付けは、「2.遅延時間の設定」のあと行ってください。

2. 遅延時間を設定する。

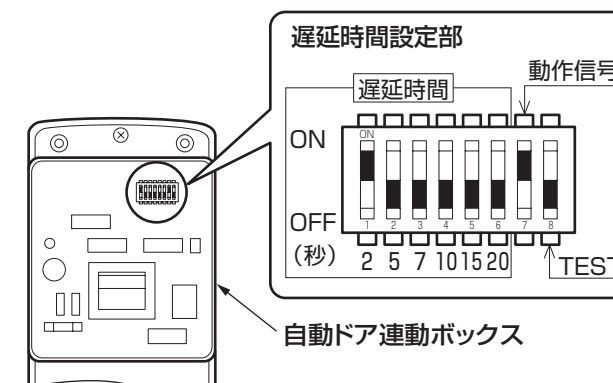
- ①自動ドア連動ボックスの遅延時間を**2秒**に設定する。

重要

注意

2秒以外に設定すると、自動ドアが開きません。

- ②自動ドア連動ボックスのケースカバーを取り付ける。
※自動ドア連動ボックスの施工説明書を参照してください。



3. 中継コードを接続する。

- ①点検口を外す。
- ②制御基板上的自動ドア用コネクタに自動ドア連動ボックスの中継コードのコネクタ部を接続する。
- ③自動ドア連動ボックスの中継コードを点検口に引き込み、ナイロクリップで固定する。

4. 点検口を取り付ける。

